

# 第6章 職業能力開発

## 1 概要

---

---

### 新しい時代の技能者づくり

---

---

経済のグローバル化やIT等の技術革新の進展による、産業構造の転換や、雇用情勢が急激に変化する中、労働力需給のミスマッチ、労働者の就業意識・就業形態の多様化等に伴う労働移動の増加、更に、個人の能力重視の傾向が強まっています。

このような中で、従来からの事業主主導の職業能力開発に加え、労働者の自発性を重視した職業能力開発を推進し、労働者のキャリア形成を支援するとともに、労働力需給における職業能力のミスマッチの解消や雇用の安定、拡大を図るための職業能力開発の推進が必要です。

このため、公共及び民間において労働者の職業生活の全期間を通じた計画的、段階的な職業能力開発を推進するため、公的な施設での職業訓練の実施、企業が行う教育訓練に対する相談・援助、情報提供、財政的支援等を行っています。また、労働者個人の職業能力評価の向上及び技能を尊重する社会の形成を目指した技能振興関連事業などを行っています。

## 2 公共職業能力開発施設

---

---

### 県立テクノスクールは4校、雇用・能力開発機構は2校

---

---

本県における公共職業能力開発施設は、県立テクノスクールが4校と独立行政法人雇用・能力開発機構による北陸職業能力開発大学校附属新潟職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ新潟）と新潟センター（ポリテクセンター新潟）の2校が設置されており、それぞれの施設において①新規学卒者②離転職者③在職者を対象とした職業訓練を行っています。

## 【本県の公共職業能力開発施設の概要】

- ① 県立テクノスクール（県立校）
- 新潟テクノスクール（新潟市）
  - 上越テクノスクール（上越市）
  - 三条テクノスクール（三条市）
  - 魚沼テクノスクール（魚沼市）
- ② 独立行政法人 雇用・能力開発機構
- 北陸職業能力開発大学校附属 新潟職業能力開発短期大学校（新発田市）  
（ポリテクカレッジ新潟）
  - 新潟センター（長岡市）  
（ポリテクセンター新潟）
  - 新潟センター新潟駅南事務所（新潟市）

## 【職業訓練の種類、課程等】（平成20年度）

種類	訓練課程	訓練の概要	対象者	訓練期間	実施施設	
普通職業訓練	普通課程	将来多様な技能・知識を有する労働者となるために必要な技能・知識を習得させる	新規学卒者等	中卒者以上	2年	県立テクノスクール
			卒者等	高卒者以上	1年、2年	
				若年求職者等	2年	
	短期課程	再就職等のために必要な知識・技能の習得	離転職者等		2か月～1年	県立テクノスクール ポリテクセンター新潟
知識・技能の追加付与（技能向上コース）			在職者		12時間以上	
高度職業訓練	専門課程	高度技術労働者として必要な知識技能・技術の習得	新規高卒者等		2年	ポリテクカレッジ新潟
	専門短期課程	高度知識・技能の追加付与	在職者		12時間以上	

### 3 訓練実施状況

---

#### 新規就職、再就職、技能向上を目指して

---

##### (1) 県が実施する職業訓練

県立テクノスクールでは、新たに職業に就くために必要な基礎的知識や技能の習得を目的とした主に新規学卒者（中学校卒業者、高等学校卒業者）向けの訓練、再就職に必要な知識や技能の習得を目的とした離転職者向けの訓練及び、在職者の能力向上を目的とした訓練を実施しています。

ア 主に新規学卒者を対象とした職業訓練で、中卒者2年制は平成18年度40人が入校、うち29人が就業しています。高卒者の1年制は30人が入校、うち27人が就業、2年制は平成18年度104人が入校、うち87人が就業しています。

(表1-①)

イ 離転職者を対象とした職業訓練で、施設内訓練は123人が入校、うち104人が就業、委託訓練は276人が入校、うち199人が就業しています。(表1-②)

ウ 在職者を対象とした技能向上コースは、740人が受講しました。(表1-③)

エ 概ね35歳以下の若年者を対象とした職業訓練で、245人が入校し、163人が就業しています。(表1-④)

オ 特別な配慮を必要とする者を対象とした職業訓練は、障害者を対象として、障害者雇用促進能力開発事業を実施し、86人が入校、うち52人が就業しました。(表1-⑤)

カ 母子家庭の母等を対象とした職業訓練で、45人が入校、うち36人が就業しています。(表1-⑥)

キ また、中越大震災及び中越沖地震の被災者を対象として、被災地求職者特別訓練事業を実施し、59人が入校し、うち49人が就業しました。(表1-⑦)

表1 県立テクノスクールにおける訓練実施状況(平成19年度)

① 主に新規学卒者等を対象とした職業訓練

対象者	訓練年度	定員	入校数	修了数	就業数
中卒者	2年制(H18入校生)	55	40	29	29
	(H19入校生)	55	37	—	—
高卒者	1年制(H19入校生)	35	30	27	27
	2年制(H18入校生)	120	104	91	87
	(H19入校生)	120	94	—	—

② 離転職者を対象とした職業訓練

対象者	訓練方法	定員	入校数	修了数	就業数
離転職者等	施設内訓練	165	123	118	104
	委託訓練	391	276	249	199

③ 在職者を対象とした技能向上コース

対象者	訓練方法	定員	受講者数	修了数	就業数
在職者	施設内訓練	1,262	740	722	

④ 若年者を対象とした職業訓練

対象者	訓練方法	定員	入校数	修了数	就業数
若年者	施設内・委託訓練	360	245	214	163

⑤ 障害者を対象とした職業訓練

対象者	訓練方法	定員	入校数	修了数	就業数
障害者	施設内訓練	30	22	22	19
	委託訓練	70	60	53	32
	e-ラーニング	10	4	4	1

⑥ 母子家庭の母等を対象とした職業訓練

対象者	訓練方法	定員	入校数	修了数	就業数
母子家庭の母等	委託訓練	60	45	41	36

⑦ 被災者を対象とした職業訓練

対象者	訓練方法	定員	入校数	修了数	就業数
被災者	委託訓練	60	59	54	49

## (2) 雇用・能力開発機構が実施する職業訓練

雇用・能力開発機構では、将来職業に必要な高度の技能及びこれに関する知識の習得を目的とした主に新規学卒者（高等学校卒業者）向けの訓練と、再就職に必要な知識や技能の習得を目的とした離転職者向けの訓練及び、在職者の高度の技能及びこれに関する知識の習得を目的とした訓練を実施しています。

- ア 新潟職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ）の新規学卒者を対象とした職業訓練は、平成18年度97人が入校、うち68人が就業しました。（表2-①）
- イ 新潟センター（ポリテクセンター新潟）の実施した職業訓練は、
  - (ア) 離転職者を対象とした施設内訓練では384人が入校、312人が就業しました。（表2-②-（ア））
  - (イ) 離転職者を対象とした委託訓練で1,130人が入校、うち742人が就業しました。  
若年者を対象とした委託訓練で、529人が入校、うち406人が就業しました。（表2-②-（イ））
- ウ 県内の雇用・能力開発機構施設全体で実施する在職者を対象とした技能向上コースは、182人が受講しました。（表2-③）

表2 雇用・能力開発機構における訓練実施状況(平成19年度)

① 新潟職業能力開発短期大学校(ポリテクカレッジ)

対象者	訓練年度	定員	入校数	修了数	就業数
高卒者	2年制(H18入校生)	100	97	83	68
	(H19入校生)	100	109	—	—

② 新潟センター(ポリテクセンター新潟)

(ア) 施設内で行う職業訓練

対象者	訓練方法	定員	入校数	修了数	就業数
離転職者等	施設内訓練	420	384	366	316

(イ) 委託訓練

対象者	訓練方法	定員	入校数	修了数	就業数
離転職者等	委託訓練	1,200	1,130	1,076	747
若年者	委託訓練	720	529	490	421

③ 在職者を対象とした技能向上コース

対象者	訓練方法	定員	受講者数	修了数	就業数
在職者	施設内訓練	200	182	170	

## 4 事業内職業訓練

### 活用されている認定職業訓練

#### (1) 認定職業訓練

- ア 認定職業訓練は、事業主等が知事の認定を受けて雇用労働者に対して実施する職業訓練であり、企業が実践的な人材育成に直接に取り組める極めて有効な教育訓練です。本県では、22団体、7事業所が実施しています。(H20.4.1現在)
- イ 個々の事業主が単独で行う訓練(単独訓練)と、職業訓練法人等の団体又は2以上の事業主が共同して行う訓練(共同訓練)があります。
- ウ 平成19年度における訓練の状況は、長期間の職業訓練(普通課程及び専修訓練課程)で14施設266人、短期間の職業訓練(短期課程)は23施設2,882人となっています。

(図1)

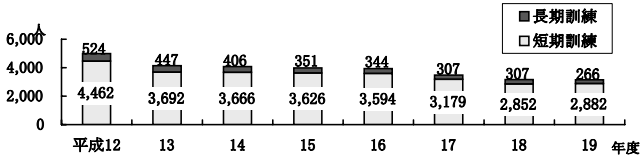
#### (2) 長期間の職業訓練 (表1-①)

- ア 普通課程では、中卒者を対象とした訓練科は共同訓練で1施設3科、高卒者を対象とした訓練科は単独訓練が1施設1科、共同訓練が12施設20科で実施され、合わせて230人が受講しました。
- イ 専修訓練課程では、共同訓練が6施設6科で実施され、36人が受講しました。
- ウ 訓練生数を訓練科別にみると、木造建築科が最も多く、中卒対象訓練15人、高卒対象訓練110人の計125人となっており、長期間の職業訓練生全体の約47%を占めています。以下、建築製図科が36人(同約14%)、塑性加工科が35人(同約13%)と続き、建築系の訓練科(木造建築科、左官タイル施工科、建築設計科、建築製図科)が約69%を占めています。

#### (3) 短期間の職業訓練 (表1-②)

短期間の職業訓練では、1級技能士コースは3科で42人、2級技能士コースは1科で9人、管理監督者コースについては3科で62人が修了しました。なお、短期課程の職業訓練では電気工事科の修了者が367人と最も多く、次いで経営実務科289人となっております。

図1 認定職業訓練生の推移



資料：県職業能力開発課「職業能力開発の概要」

表1 認定職業訓練実施状況(平成19年度)

① 長期間の職業訓練

訓練課程	区分	訓練科	訓練施設数	訓練生数				
				1年	2年	3年		
普通課程	中卒	共同	塑性加工科	1	14	6	4	4
			木造建築科	1	15	4	7	4
			左官タイル施工科	1	7	3	3	1
			計	1	36	13	14	9
	高卒 (1年制)	単独 共同	土木施工科	1	5	5		
			電気工事科	1	12	12		
			送配電科	1	6	6		
			建築設計科	1	12	12		
	計	2	35	35				
	高卒 (2年制)	共同	塑性加工科	2	21	13	8	
			洋裁科	1	4		4	
			和裁科	1	9	4	5	
			木造建築科	9	97	40	57	
			建築設計科	1	4	3	1	
			漆器科	1	5	2	3	
			建築塗装科	1	6	4	2	
	計	10	146	66	80			
	高卒 (3年制)	共同	木造建築科	1	13	3	8	2
			計	1	13	3	8	2
合 計			12	230	117	102	11	
専修訓練課程	共同	建築製図科	6	36	36			
		電気工事科						
		経理事務科						
		計	6	36	36			
合 計			6	36	36			

※訓練施設数の欄は、施設が実施している訓練科の実数を記載したため、計及び合計欄の数値とは一致しない。

② 短期間の職業訓練

訓練課程	訓練科数	延べ訓練施設数	修了者数	修了者数	
				単独	共同
短期課程	1級技能士コース	3	2	42	42
	2級技能士コース	1	1	9	9
	管理監督者コース	3	2	62	62
その他	電気工事科	1	5	367	367
	経営実務科	1	1	289	289
	調理師山形産科	1	1	253	253
	美容科	1	4	249	113
	自動車整備科	1	1	197	197
	電子計算機科	1	5	180	180
	販売科	1	1	135	135
	その他	23	40	1,099	124
合 計	37	63(23)	2,882	372	2,510

※( )内：実数



## 5 職業能力評価

---

技能検定合格者は1,681人、累計では7万1,475人(平成19年度末)

---

### (1) 技能検定 (図1)

ア 技能検定制度は、働く人の技能習得意欲の増進と技能及び職業訓練の成果に対する社会一般の評価を高め、技能と技能者の地位向上を図る目的で昭和34年に創設されました。現在、検定職種は創設当初の5職種から、136職種まで拡大しています。

イ 等級は特級、1級、2級、3級及び等級区分のない単一等級に区分されており、技能検定の合格者には「技能士」の称号が与えられています。平成5年度からは、外国人研修生を対象とした技能実習制度の開始に伴い、外国人のための技能検定として基礎1級及び基礎2級が設けられています。

ウ 本県では、平成19年度75職種(基礎級を除く)について技能検定を実施し1,681人が合格しました。累計で、7万1,475人の技能士が誕生しています。

### (2) 技能五輪全国大会 (表1)

ア 技能尊重気運の醸成を図るため、23歳以下の青年技能者を対象として技能五輪全国大会が開催されています。本県からも選手団を派遣し毎年優秀な成績を収めています。

イ 隔年で開催される技能五輪国際大会(正式名称は国際職業訓練競技大会)に、前年の技能五輪全国大会で選抜された代表選手が派遣されます。本県からは、平成19年度に開催された静岡大会に3人が出場し、洋菓子製造職種で金メダル、配管、左官職種で銀メダルを獲得し、過去最高の成績を収めました。

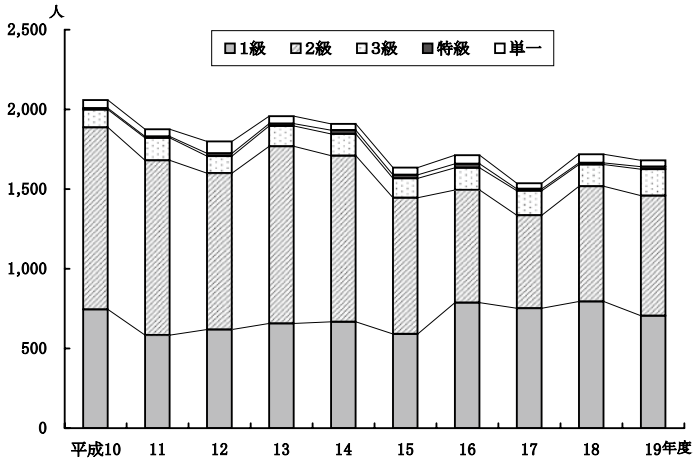
### (3) 技能グランプリ (表1)

1級技能士による全国大会「技能グランプリ」が隔年で開催されており、本県は昭和56年の第1回大会から参加しています。平成18年度は建築配管壁装、機械組立て、園芸装飾職種での1位をはじめ、9職種で入賞するなど優秀な成績を収めています。

### (4) 若年者ものづくり競技大会 (表1)

次代を担う20歳以下の若年技能者を対象として、平成20年度に開催された第3回大会では、本県の選手が建築大工職種で2位、旋盤職種で敢闘賞を受賞しました。

図1 技能検定合格者状況



資料：県職業能力開発課「職業能力開発の概要」

表1 技能競技大会の参加及び入賞状況

年度	技能五輪全国大会			技能グランプリ			若年者ものづくり競技大会		
	参加職種	参加者数	入賞者数	参加職種	参加者数	入賞者数	参加職種	参加者数	入賞者数
平成9	8	19	12	9	13	7	-	-	-
10	9	25	13	8	11	5	-	-	-
11	7	18	8	9	13	8	-	-	-
12	8	17	8	10	14	10	-	-	-
13	15	39	6	9	10	7	-	-	-
14	13	43	14	11	12	9	-	-	-
15	23	162	71	-	-	-	-	-	-
16	18	72	22	10	13	8	-	-	-
17	15	44	19	-	-	-	2	4	2
18	13	34	12	10	17	13	3	8	3
19	11	35	13	-	-	-	-	-	-
20	11	42	19	9	17	-	2	3	2

注1. 技能グランプリは、平成14年度から隔年開催